

2022 年度 学位記授与式

理工学部各 EP と大学院の各ユニットの 2022 年度学位記授与式は、昨年度に引き続き新型コロナウイルスの感染拡大防止への対応を継続する形で実施されました。海洋空間のシステムデザイン EP・ユニットでは、卒業生 34 名は 14 時半からの学部学位授与式、理工学府の修了生 22 名と先進実践学環の修了生 7 名は 15 時半からの大学院学位授与式の時間帯に分かれ、学位記等は原則として代表者のみが直接授与という形式での学位記授与式となりました。一方で、弘陵造船航空会主催の祝賀会は今回も見送りとなったものの、学位授与式での弘陵造船航空会会長による祝辞を 4 年ぶりに実施しました。

学部卒業生の学位記授与式では、学部教務委員の村井教授の司会によって実施されました。開会の辞に続き、代表者への学位記授与が EP 代表の上野教授により行われました。学位記授与に続き、日本船舶海洋工学会奨学褒賞、日本航空宇宙学会賞学生賞、弘陵造船航空会賞、船舶海洋工学賞がそれぞれ 1 名ずつに贈られました。各賞の授与に続き、教室主任の川村教授から式辞が述べられました。式辞では初代校長・鈴木達治先生が提唱された【名教自然】を引用しつつ、「与えられたことをするだけではなく、『いろいろなことに興味を持って自発的に取り組み、新しいことを常に学んで行くこと』は、皆さんの将来を豊かにするためのキーワードであり、また新しい社会を作り上げていく手段になると思います。社会に出ても、是非、自発的に学ぶことを続けて行って、自分の世界・視野を広げて行っていただければと思います。」というメッセージを伝えられました。その後、弘陵造船航空会の飯島会長から祝辞が述べられました。祝辞では、中島みゆきの名曲【糸】

の歌詞を引用しながら、先輩後輩の「縦の糸」と同級生の「横の糸」を大事にしながら社会で活躍してほしいという旨のメッセージを伝えられました。

式辞の後、閉会の辞をもって終了し、天気が雨だったため、卒業生は製図室にて記念撮影をもって解散となりました。

大学院修了生の学位記授与式の流れは卒業生の学位記授与式に準じたもので、司会は大学院教務委員の平川准教授、学位記授与はユニット長の川村教授が行いました。授与式は 20 分程度で終了し、記念撮影後に解散となりました。

学生にとって、2022 年度は、授業を含めた様々なイベントが対面での実施に移行しつつも、オンラインツールを効果的に活用することを模索した 1 年だったかと思います。今年度卒業・終了した同期が対面・オンラインを問わず交流を続けていくことで、同期のつながりを保ち続けてくれることを心から願っています。